

【技能検定活用事例①】

東京都立府中工科高等学校

■学校概要

所在地：東京都府中市若松町 2-19

昭和 37 年創立

機械科、工業技術科、情報技術科、電気科

生徒数約 490 名／進路状況（就職 6 割、進学 4 割）

公式 HP <https://www.metro.ed.jp/fuchukoka-h/>

「機械検査 3 級」を軸に技能検定を活用し、 生徒の自信と実力、そして挑戦心を育む

技能検定を活用している学校・企業などの取り組みをご紹介します。第 1 回は、技能検定「機械検査 3 級」合格者を数多く輩出している東京都立府中工科高等学校を訪問。高野学校長、機械科 高原瑛樹先生、工業技術科 川口浩一先生、そして生徒のみなさまにお話をうかがいました。

——まずは学校の概要、特色をお願いいたします



高野校長 昭和 37 年に設置され創立 64 年になる全日制専門学科高校です。「卒業時には即戦力として社会に求められる人材を育成する。自ら考え、物事に柔軟に対応できる力を備え、社会インフラの整備や開発・設計などで社会に貢献できる技術者を育成する。」ことをスクールミッションとしています。カリキュラムポリシーでは、とりわけ資格取得に重点を置いており、将来に役立つ資格を取得することを目指したカリキュラムを編成しています。

例えば、国家資格「第 2 種・第 1 種電気工事士」。こちらは毎年全国でも 1, 2 位を誇るほどの合格者を輩出しています。近年は情報教育にも注力しており、機械科、工業技術科、電気科でも「IT パスポート」、情報技術科はさらに上位の「基本情報技術者」取得を目指すカリキュラムをそれぞれ設けています。

——そうした中で、技能検定を活用するに至った経緯を教えてください

川口先生 技能検定は約 20 年前、市民講師の協力を得て少人数から開始しました。長年「機械加工 普通旋盤作業 3 級、2 級」取得に注力し、教員側にもノウハウが蓄積されています。最多時には機械科・工業技術科生徒、学年の半数（約 30 名）が取得していました。ただ、旋盤の台数に限りがあり、1 度に試験できる人数が限られてしまうという問題がありました。そこで、より多くの生徒に技能士資格を取得してもらうため、比較的道具と材料を用意しやすい「機械検査 3 級」への注力にシフトしました。

——「機械検査 3 級」の魅力をどのように感じておられますか？

高原先生 「機械検査」は、機械部品や製品の寸法・精度・品質を測定・判定する重要な技能を証明する検定です。部品を正確に測定できるようになると、旋盤やフライス盤の扱いにも必ず良い影響が出ます。

そもそも機械加工は機械を動かし削る作業のため、ある程度の勇気が必要です。加工は失敗するとやり直しがきかないからです。そのため慎重になる生徒も多いのですが、「機械検査 3 級」を受検した生徒たちは測定スキルが格段に向上し、それが自信につながっています。実習でも手際よく作業を行い、失敗を恐れず挑戦する姿勢が確実に育まれています。測定という基礎技能を徹底的に修得することが、結果として加工技術全体の底上げにもつながっています。

——技能検定の前後で生徒のみなさんは大きく成長されているわけですね

高原先生 資格を取得した生徒はクラスで一目置かれる存在になります。グループ作業でもリーダー的役割を担うことが多く、自己肯定感も高まっているように感じます。

なお、製造業に就職する際、「機械検査 3 級」を取得していると、企業側も難易度を理解しているので、生徒の技能レベルを客観的に評価してもらえるとというメリットもありますね。

——技能検定を積極的に受検してもらうために何か工夫されていることはありますか

川口先生 学校説明会で「機械検査」のブースをつくって紹介しています。中学生にこういう資格があること、入学したら受ける機会があることを伝えています。

入学後、機械加工などの実習で測定は絶対にあり、そこで「機械検査」の資格が大いに役立つという話もしています。こうした積み重ねが受検者数増加につながっていると思います。

——「機械検査3級」はどのような生徒が受検されていますでしょうか

川口先生 以前は希望者全員を受検させていましたが、途中で諦めてしまう生徒もいました。そこで令和7年度は受検申請前に校内学科試験を実施し、合格者のみ校内の実技講習会を受けられる仕組みにしました。意欲の高い生徒に絞って指導することで、より良い結果につながっています。実際、今年度は機械科・工業技術科合わせて60名中21名が校内学科試験に応募し、全員合格となり、意欲的に講習会へ参加していました。

——合格率向上のための工夫はありますか

川口先生 先ほどの校内学科試験合格者を対象に、11月半ばぐらいから放課後講習もほぼ毎日実施しています。また、3年ほど前から、試験日前に校内で実技試験の模擬試験を行っています。令和7年度は実技試験が1月上旬だったため、^{注1}12月25日に模擬試験を実施しました。

この模擬試験の効果は非常に大きく、実施した年としなかった年では合格率に差が出ます。本番はどうしても緊張しますが、一度本番形式を経験しておくことで落ち着いて臨めるようになります。

注1) 実技試験の試験日は都道府県によって異なるため、1月上旬とは限りません

——進学する生徒の増加に伴い、指導の仕方・方針に変化はありますか

川口先生 私どもの高校でも進学を選択する生徒が増えています。昨今、総合型選抜入試を重視する大学も多いですが、工科高校の生徒は実技や資格取得、コンテスト参加などアピール材料が豊富で有利です。

ただ私は、まず高校卒で即戦力となる優秀な技術者・技能者を育てたい。進学自体を否定するわけではありませんが、明確な目的を持った進学であることを大切に、安易な進学にならないよう指導しています。

——ジュニアマイスター顕彰制度はモチベーションにつながっていますか

川口先生 もちろんです。資格取得は工科高校ならではの強みで、多くの生徒が挑戦しています。今年は、「特別表彰」10名以上、「ゴールド」20名以上と例年以上の結果でした。計画的に関連資格を取得している生徒もいます。



——技能検定へ期待することをお聞かせください

川口先生 技能検定には「機械検査」以外にも魅力的なものがたくさんあります。チャレンジのしやすさが分かると私たちも生徒たちに勧めやすくなるかと思っています。

高野校長 そうですね。特に「機械検査」は測定の基礎技術を習得でき、旋盤・フライス盤の加工技能の習熟につながる資格なのでこれからも注力していきたいですね。余談ですが、試験会場で社会人受検者と同席することが刺激となり、生徒のモチベーションを高めているようです。そういう意味でも技能検定を生徒たちに受検してもらうことは非常に意義深いと実感しています。

技能検定「機械検査3級」を受検した生徒7名にもお話をうかがいました。

——なぜ技能検定を受けましたか？受検の感想は？^{注2}

- 就職を見据えてなるべく多くの資格を取得したいと思っています。その一つとして受検しました。実技は結構難しかったです、手応えもありました。
- 先生に勧められて受けました。
- 緊張が大きくて手が震えたけれど、何とか平常心を心がけて取り組みました。あとは学科はとにかく暗記して頑張ろうと思っています。
- かなり練習したので、緊張したけれど何とか普段通りできました。
- クラスで10名ぐらい受けることになってみんなと一緒に勉強できることに魅力を感じたから。本番は緊張していてあまり覚えていません。受かっていればいいなと思っています。
- 国家資格ということで就職に役立つかなと思って受検しました。練習では時間が意外に余っていたのに本番では時間がなくて焦りました。

——先生方のサポートは？

- 実技試験と同じ材料を用意してもらい、放課後、自分たちで自主的に練習しました。途中で先生たちの誰かが見に来てくれてアドバイスをしてくれました。
- 学科の過去問を準備してくれてそれを使って勉強しています。用意してもらい、本当に助かりました。
- 野球部顧問で忙しいはずなのに、Y先生は放課後、実技の練習をしている僕らのところにも来てくれて声かけをしてくれた。先生の励ましが心の支えでした。

——将来は？

- ものづくりが好きなので製造業に就きたいです。
- 「機械検査」とは関係ないかもしれないけれど、鉄道の運転士になりたい。
- 馬が好きで馬の馬蹄をつくりたいのでそのための専門学校へ進学するつもりです。

注2) 技能検定には実技試験と学科試験がありますが、取材日は実技試験後、学科試験前でした

<まとめ～お話をうかがって～>

資格取得は単なる実績づくりではなく、生徒の自信と挑戦心を育てる教育の柱として位置づけられています。教師の思いをしっかりと受けとめて資格取得に挑戦している生徒のみなさんのお話も聞かせていただき、同校にとって技能検定は確かな成果を生み出す学校の文化として根づいているように感じられました。



本記事に含まれる文章、画像及びその他のコンテンツに関する著作権は、中央職業能力開発協会に帰属します。無断での転載や加工及び配布はご遠慮ください。

※掲載内容は取材当時（令和8年2月）のものです。